

創立20周年記念号



我孫子稻門会

田中愛治総長 挥毫

2019年10月1日
第20号
編集発行
我孫子稻門会

会長 実松 靖之
(昭38年・政経)



朝まだき、湖面に漂う水鳥の声・・、黄昏、暮れなすむ日の名残り・・、変わらぬ穏やかな佇まいに包まれて我が我孫子稻門会も恙なく創立20周年を迎えた。

去る6月8日には記念の総会を開催、ワセオケの愛称で知られる早稲田大学交響楽団の招致を実現して、我が稻門会、ワセオケの歴史にも残る令和初となる演奏会を催し近隣稻門会や市民の方々にも好評を博しました。

改めて我が稻門会に関わって来られた今までの方々の献身に想いを致す時、その百彩に深い感慨を覚えずにはいません。

皆様の細やかな力がやがて脈々と繋がり時代と共に受け継がれていく、只今の我が稻門会の礎となっていることに改めて深甚の感謝を表するものです。

現在、県下の錚々たる稻門会に比べ、経て来た星霜の些かの少なさにも拘わらず、今日烈々として他に肩を並べ得るに至った事も又、この20年、稻門会に関わって来られた夫々の方々のご努力の賜に他なりません。

野口、日吉、大塚の各氏、この怜俐にして果斷な歴代会長のもと、人々は集まり、組織を立ち上げ予定を組み、豊かな自然に恵まれたこの我孫子の地を愛で、同好の趣味に興じ、時に応じて我孫子市の発展や繁栄に幾許でも寄与して参りました。

我々現会員一同、今後共この輝かしい伝統を引き継ぎ、更に次の世代へと櫻を無事渡すべく、常に“至誠に悖る無かりしか”と自問致す日々です。

顧みるに我が稻門会創立以来の平成の20年間は決して

平穏な世の中ではありませんでした。

平成13年には米国多発テロ、20年にはリーマン・ショック、23年には東日本震災と立て続けの災厄、その中で人々が助け合い絆を深めていった事は人間の可能性を信じる大いなる縁となりました。その間、我が母校も奥島、白井、鎌田の各総長が翼々とバトンを引き継がれ、更に昨秋就任の田中愛治総長へと至り、今年、令和の時代を迎えて、都の西北の伝統を堅守しながら、世界に冠たる新たなる早稲田を目指して確かな歩みを進めております。

今後、40周年、50周年を迎える遙かな日々、会員諸君が手を携えて我が稻門会を守りながら、変わらぬ手賀沼の夕日の美しさや菖蒲や藤の花を愛する姿がデジタルとなつて目に浮かんできます。

そう、集まり散じながらもワセダの魂は此処、我孫子にも凜乎として永遠に生き続けるに違いありません。

皆様の御健勝を祈り致します。

我孫子福門会二十周年祝辞

早稲田大学常任理事
佐々木 ひとみ



我孫子稻門会創立二十周年
心よりお祝い申し上げます。

に参加した早稲田大学交響楽団の学生たちも二十歳前後です。二十年前に産声をあげた赤ちゃんたちが、多くの聴衆の前で堂々と演奏を披露するまでにご家族の多くの愛情とご支援を受けてきたように、我孫子稻門会もまた本日を迎えるまでには関係者の皆様の多くのご努力があつたからこそ、心から敬服申し上げます。ご存知のように、早稲田大学交響楽団、通称ワセオケは早稲田大学の中でも屈指の伝統と実績を持つサークルのひとつです。レベルも高く、

私はつい1年前まで、キヤリアセンター長として日々学生の進路相談にのつておりました。こんなに優秀で、堂々たる單一生徒でさえ、学年があるにつれ、将来自分がどうなるか、先が見えず夢と不安が行き来する毎日を過ごしています。稻門会の皆様方も一十歳の頃お感じになつたであろう「自分が何者か」という問いを、現代の学生たちも変わらず自問しています。「人は変われど」変わらぬ青春の懊惄なのでしょう。

ステージで演奏する学生は豊富な経験も持っています。その学生たちが、指揮者の先生の企画を機に、一瞬にして心をひとつにし、自分たちの音の世界へ没頭してゆく姿は、大変感動的でした。一千歳後で、一心不乱に打ち込めるものを持てることは、どれほど貴重で幸福なことか。真っ

は、稻門会の皆様の在学生へ
念行事に、ワセオケの演奏会
を企画されたというご英断に

きまして、ご支援、ご協力を
賜りまして誠に有難うござい
ます。

特に11月24日(日)に開催され
します千葉県稲毛祭は最大の
イベントで、その目的は多岐

の温かい愛情を感じました。その思いに応えるように学生たちが今だからこそ情熱あふれる音を奏で、それがまた会場の多様な世代の方たちが一緒に感動を共有している大変感動的な風景でした。

また、先日の総会の際の早稲田大学交響樂団の催しにつきましては、素晴らしい企画と演奏をお聞かせ頂きまして大変感動致しました。更には日頃から貴会の主催や同好会による諸活動につきまして、

に及んでおります。今年もまた我孫子稻門会の皆様には大勢の校友の参加をお願い致します。

こうやつて先輩から後輩へ
早稲田から社会へと何かを繋
ぐ役割を稻門会が担う——とい
う新しい形を本日見せていました。
だいたい気がいたしました。今
後ともますます我孫子稻門会
が発展されることを心より
祈念しております。

多岐に亘られておりますこと
敬意を表します。

さて、千葉県支部は支部規
則で「大学校友会と県下稲門
会の間にあつて各稲門会の拡
大発展を基本とし、相互の交
流親睦、地域貢献、大学の發
展への寄与などを目的とする」

大の決意と覚悟を表明され
「たくましい知性」と「しな
やかな感性」を土台に「研究
の早稲田」「教育の早稲田」
「貢献の早稲田」という三つ
の柱を立てられました。
この為に校友の皆様から大
学が抱えている諸問題につい

校友會千葉県支部長

松平
武史



我孫子稻門会創立二十周年
を迎へ、会員の皆様へ心から
お祝い申し上げます。

具体的な方針としましては、若手校友、女性校友の更なる組織化、校友会費納入率の向上推進、大学各種募金活動への協力支援などと共に、県下稻門会の活性化支援を重点活動としておりまして、各種行事や同好会活動の交流、催物事や案内などについて支部が間に入ってお手伝いする事がでなければと思っております。

ご支援もぜひ頂きたいと話されております。混乱の時代を迎えた今、「集り散じて」の合言葉で活発な活動を展開して行きたいものです。

結びにあたりまして我孫子稻門会の更なる飛躍と共に、会員の皆様の「健勝」と「活躍」をご祈念申し上げます。一周年、誠におめでとうございます。

我孫子稻門会創立二十周年
を迎え、会員の皆様へ心から
お祝い申し上げます。

動としておりまして、各種行事や同好会活動の交流、催物の案内などについて支部が間に入ってお手伝いする事がで
きればと思っております。

稻門会の更なる飛躍と共に、
会員の皆様の更なる健勝と活躍
を祈念申しあげます。一周年、誠におめでたれこれ
ます。

我孫子稻門会二十一年の歩み

翔け！「我孫子稻門会」

第二代会長 日吉 照輔
(昭35・商)



ればかりの拍手とアラボー！
の声も響き大盛況でした。

さて私達の住む我孫子は、
手賀沼を中心に豊かな自然
に恵まれ、かつては多くの
文人や芸術家のやすらぎと
制作の場でもありました。

手賀大橋から見る日の出
や夕日は素晴らしい、そこ
に遊ぶ白鳥の親子を一羽、
二羽・・・と数え、また若
葉の頃や桜が満開の湖畔は、
小鳥のさえずりも聞こえ華
やかで楽しい季節です。

これもひとえに、我孫子
稻門会会員、早稲田大学本
部、校友会千葉県支部、近
隣稻門会、そして特に我孫
子市民の皆様のご支援の賜
と感謝致し御礼申し上げた
いと思います。

先日の二十周年記念コン
サートには「早稲田大学交
響楽団」による演奏会に会
場を埋め尽くす程の一般市
民の方々のご来場を頂きました。素晴らしい演奏を頂きま
した。素晴らしい演奏に割

歌の・・・
あれ見よかしこの常磐の森は
心のふるさとわれらが母校

集り散じて人はれど
仰ぐは同じき理想の光

・・・と、あるように母校
早稲田大学を「心のふるさ
と」と思う私達が縁あつて、
この我孫子の地で暮らし、
めぐり逢つたのです。

早稲田大学と我孫子をつ
なぐ絆、それが「我孫子稻
門会」だと思います。

この絆を大切に、更なる
親睦を深め、校友の輪を広
げ、令和の時代を翔いてほ
しいと願つております。

ポストマンの皆様に感謝

第三代会長 大塚 紀年
(昭38・商)



我孫子稻門会の創立20周

年、まことにおめでとうござります。また過日の創立
20周年記念総会や早稲田大学交響楽団による演奏会も
成功裏に終えることができ、会員勧誘案内などを発送す

ご準備ご協力をいただいた
役員や会員の皆様のご尽力
に改めて御礼申し上げます。

るためには、多大の郵送料
を必要としました。

して出席されていました井
原理事（その後実践女子大
学事務局長・理事長を歴任
し今年4月に退任）に相談
しましたところ、「ポスト
マン制度」を伝授されました。
この制度は各地区（布
佐、湖北、我孫子などの字
毎）に地区委員（ポストマ
ン）を置き、各種の案内な
どを直接会員や校友にお届
けするという制度です。

大勢の会員の皆様のご協
力を得て、殆どの地区にポ
ストマンを配置することが
でき、この委員のかたがた
の長年に亘るご尽力により、
会員や校友とのスムーズな
連絡や交流ができ、現在の
稻門会の基礎が築けたと考
えております。創立20周年
にあたり、改めてポストマ
ンの皆様に心から感謝申し
上げます。

このような我孫子稻門会
の活動の礎となり、発展を
後押ししてくれたのは、平
成15年に導入した「ポスト
マン制度」が大きな要因の
一つと考えています。会員
や1200名を越す校友に
対する総会新年会の案内や
会員勧誘案内などを発送す

我孫子稻門会が、今後も
時代の変化に柔軟に対応し
益々発展することを心から
祈念し、創立20周年のお祝
いの言葉いたします。

ワセオケと私

会長 実松 靖之

私がワセオケの演奏を初めて耳にしたのは大学の入学式であつた。高校時代には何か伸びびもして音楽喫茶辺りで盛んにクラシックのレコードを聞いたものだつたが、初めて耳にしたワセオケの艶やかな弦の音と華やかな管の音は早稲田に入学出来た

喜びと相俟つて今も鮮やかに耳に残つている。

時を経て2018年初頭、我孫子稻門会20周年記念の催し物を何にしようかと役員会で話題になった時、真っ先に私の頭に浮かんだのは我孫子にワセオケを呼びたいという謂わば執念とも妄想ともいうべきものであつた。ワセオケOBである会員の深津さんにアドバイスを受けながらの18年度ワセオケ代表の斎藤君、副代表で19年度代表の宮田君や他の学生諸君と打ち合わせやメールのやり取りはステージ、男女控え室のやり繰り、楽器運搬、昼食等、一年半の間、多岐に亘つた。中でも費用の問題は時として我々の心胆を大いに寒からしめた事を覚えている。

その間、本来の勉学、更に就職試験などを控えながら何度も我孫子まで来て呉れた学生諸君、本当に有難う。君たちの好意は忘れない。



指揮:寺岡 清隆 氏

早稲田大学文学部を卒業後、桐朋学園大学を経てウィーン国立音楽大学指揮科で学ぶ。ウィーン在住。

「第五」の終わった後に、あちこちから響く「ラボー」の声、聴衆の殆ど全員合唱となつた「都の西北」、感涙に噎ぶOB、OG。演奏会に関わつて頂いた全ての諸氏に改めて深甚の感謝を。そして早稲田大学交響楽団よ、永遠なれ！

トーベン、曲の進行と共に演奏に歯切れが増し、令和初のワセオケの演奏は、学生交響楽団の雄として十分の出来映えとなつた。

第一部は、花束贈呈担当の木野さんと共に客席から「ニユルンベルクのマイスター・ジンガー」・前奏曲などを聴くことができて幸い。まずはアップテンポな金管、木管、弦楽、打楽器の重層的な音の響きに魅了された。

第二部は、花束贈呈のため舞台袖に待機。陰アナウンスの中さんは始めから舞台袖に控え、メリハリの効いたお声でテキパキと説明され、さすが元アナウンス部出身。指揮者お付きの女学生達はずつと立つたまま、一

曲終わることに戻られる寺岡氏も汗を拭う程度で、お座りにならなかつた。そして「運命」が始まる。昔からお馴染みの曲で、正直あまり好きでなかつた。ところがこの日の「運命」は、私の心を揺さぶつた。豪快でありながら、なんと流麗で温もりのある演奏の如きは、私はこれまで一度も見ることなく、全身で学生達と一緒に聴いていた。運命は扉を叩くだけでなく、扉を開いて、苦しみを乗り越え喜びへ至る道へ、一步足を踏み出すものであるとぐつと背中を押されたような感銘を受けた。

万雷の拍手が会場内に鳴り響いた。「ラボー」の声も連呼された。これだけ多くの演奏者と観客が感動の坩堝と化す。私もこらえていた涙がふつと溢れた。今日に至るまで、様々な會議と学生達との懇談を重ねてきた。実松会長の牽引力と小池幹事長と高谷副幹事長の実践力、横須賀副会長と海老原副幹事長のサポート力と皆のすべての努力が報われた。こんなにも感謝する音楽を届けてくれた逞しい指揮者と、演奏だけでなく裏方としてもしっかりと働いてくれた頼もししい早大生に、心から感謝。

記念コンサートの舞台袖から

村上 智雅子（昭43・文研）



曲終わることに戻られる寺岡氏も汗を拭う程度で、お座りにならなかつた。そして「運命」が始まる。昔からお馴染みの曲で、正直あまり好きでなかつた。ところがこの日の「運命」は、私の心を揺さぶつた。豪快でありながら、なんと流麗で温もりのある演奏の中での我儘を聞いて頂いたものがある。演奏曲目に「ラボーム」の「大学祝典序曲」を加えて、アンコールに「早稲田の栄光」と、最後に合唱のための校歌を演奏してと。

受験時代と入学式で聞いた曲、神宮球場の早慶戦で勝った時に歌つた曲、在ウィーンの寺岡先生の快諾を聞いた途端、胸が熱くなつた。

そして6月8日、チケット完売、席ないかの問い合わせ頻りの中、総勢120名の団員が来我、それに我々の熱意に応えて遙々ウィーンから駆けつけて頂いた寺岡清高先生の指揮で交互に熱演を披露する事となつた。

ワーグナーに始まり最後のベートーベン、曲の進行と共に演奏に歯切れが増し、令和初のワセオケの演奏は、学生交響楽団の雄として十分の出来映えとなつた。

第一部は、花束贈呈担当の木野さんと共に客席から「ニユルンベルクのマイスター・ジンガー」・前奏曲などを聴くことができて幸い。まずはアップテンポな金管、木管、弦楽、打楽器の重層的な音の響きに魅了された。

第二部は、花束贈呈のため舞台袖に待機。陰アナウンスの中さんは始めから舞台袖に控え、メリハリの効いたお声でテキパキと説明され、さすが元アナウンス部出身。指揮者お付きの女学生達はずつと立つたまま、一

会員近況

早稲田の学生が医学を目指すに至った理由（ワケ）

西川 将巳（昭59・文）



私は、早稲田大学第一文学部（心理学専攻）を卒業してから医者になつた、変わり者である。思い起こすに、なぜ私が、医学を志そうと思ったかと云ひたい。ちょうど早稲田の心理3年生の頃のこと。日本のCerebral Dominance（大脳半球優位性）研究の草分け的な存在であった、角田忠信先生（元東京医科歯科大学教授）のご著書を読んで、是非、自分も脳の研究をしてみたいと思つたのが馴れ初めてである。早稲田の指導教官であった小杉正太郎先生に相談に行つたところ、快く紹介状を書いて下さつた。早速それを持って、医科歯科の角田研究室の門戸を敲いたところ、「是非、いらっしゃい」とのこと。それからというもの、早稲田には殆ど行かず、医科歯

科の研究室で、脳波実験三昧の生活を送つた。心理学からは少し心が離れ、「是非とも、人間の“脳”的研究をしたい、“ここを研究するには、脳の研究は不可欠である」と、そのことばかりを考えていた。4年生の初夏だったと思う。小杉先生に、「早稲田を辞めて、医学部へ行きたい」と話したくなり、その時始めて、先生から叱られた。「行くのなら、ちゃんと早稲田を卒業してから行きなさい」と。医科歯科で取りためた研究データをもとに、「両耳分離聽課題を用いた聴覚性誘発電位における大脳半球優位性」というテーマで卒論を取り組むと同時に、医科歯科を目指して受験勉強を始めたのであるが、ちょうどその頃、早稲田の心理の大統合研究所で、やはり脳の研究授業を行っていた杉下守弘先生（杉下先生はその後、東京大学の教授になりましたが、平成15年ご退官。）のところへ相談に行き、「医学部に行って脳の研究をしたい」とお話ししたところ、「君、それなら“脳研”的ある東大に行くべきだ」と唆されたのである。そんな訳で、東大医学部を目指すに至つた。考えてみれば短絡的な話であるが、当

稻門医師会・稻門医学会 理事
川村学園女子大学大学院
人文科学研究科長・心理学専攻
教授

科の研究室で、脳波実験三昧の生活を送つた。心理学からは少し心が離れ、「是非とも、人間の“脳”的研究をしたい、“ここを研究するには、脳の研究は不可欠である」と、そのことばかりを考えていた。4年生の初夏だったと思う。小杉先生に、「早稲田を辞めて、医学部へ行きたい」と話したくなり、その時始めて、先生から叱られた。「行くのなら、ちゃんと早稲田を卒業してから行きなさい」と。医科歯科で取りためた研究データをもとに、「両耳分離聽課題を用いた聴覚性誘発電位における大脳半球優位性」というテーマで卒論を取り組むと同時に、医科歯科を目指して受験勉強を始めたのであるが、ちょうどその頃、早稲田の心理の大統合研究所で、やはり脳の研究授業を行っていた杉下守弘先生（杉下先生はその後、東京大学の教授になりましたが、平成15年ご退官。）のところへ相談に行き、「医学部に行って脳の研究をしたい」とお話ししたところ、「君、それなら“脳研”的ある東大に行くべきだ」と唆されたのである。そんな訳で、東大医学部を目指すに至つた。考えてみれば短絡的な話であるが、当

時は、まだ若く、私も生真面目であったのだね。東大卒後は、“いいやん”と“脳・身体”的の相關「心身医学」を研究すべく、心療内科に入局。脳機能画像研究を行つために、カナダのMontreal Neurological Instituteに留学もした。

その後、縁あって、今は川村で“心理師”を養成するような仕事を専念しているのだが、そんな話まで書いていると、大きく字数を超えてしまいそうなので改めて振り返つてみると、自分が、何に、こうして、“心理学”と“医学”的の架橋のような仕事をさせて戴いているのも、ひとえに、あの時の、角田先生の御寛容と小杉先生の御一喝、そして杉下先生の御助言のおかげであつたのだなあと、感慨深く思い出される。君恩海誓。この場をお借りして、若輩者の私に折々の道標を示して下さった恩師たちに、心からの感謝のことうござります。

杉原千畝ゆかりのリトニアで桜の植樹を！
大谷 光弘（昭46・商）



旧領事館執務室にて

和国カウナス市に杉原記念館を設立して、上品な3人の親に発給したヴィザが無ければ自分たちは存しなかつたとばれた杉原千畝氏の写真に涙を流しながら、手を合わせているのを見かけたのです。杉原氏が両親に発給したヴィザが無ければ自分たちは存しなかつたとばれたアメリカ人でした。ある程度の知識はあつたものの、現実の場面に出会つて杉原氏の偉業を再認識したのと同時に、それを広く世界の人々に伝えていくことをしたいと考えていました。

毗鄰に頭に浮かんだのは前日訪れた首都ヴィリニュスで多くのリトニア人に愛されている本を越える桜が植樹され、校友である杉原氏を讃える早稲田大学のレリーフが設置されています。毎年春には満開の桜を見るために毎年春ヴィリニュス以外からも多くの人たちが訪れ、

自由に歩けなくなるほど賑わうことでした。そこで杉原記念館の館長に、カウナスでの桜の植樹を提案したのです。

日本側は資金調達やツアーライブの開園式、桜植樹式の日を迎えたのです。カウナス市に対する熱い思いや夢が叶つた感激を力板には支援者として“早稲田大学校友有志”を残すことになりました。



植樹式でのスピーチ

最後に本件に関し、ご支援賜りました稻門会の皆様に、改めて御礼申し上げます。



三代続く早稲田OB

加藤 高一（昭33・商）

私の孫が今年三月、早稲田

大学理工学部を卒業し、これで

当家には、三代続いて早稲田OB

が誕生しました。孫の卒業祝

いと社会に羽摶ぐ孫を激励する

ため、早速家族で本人を囲み祝

杯をあげました。

さて私の在学時を回顧します

と、まず脳裏に浮ぶのは専攻し

た林ゼミ（統計学）のことです。

林文彦先生には学業面だけな

く広範囲に亘り御指導頂きまし

た。先生のお宅に仲間とお伺い

した時には、深夜に及ぶことも

ありました。

大学卒業後は林先生の主宰す

る「文友会」に入会し、先輩後

輩の方々と交流する機会ができ

ました。当会の定期総会では、

政財界など著名な方を講師にお

招きして講演会が開催され、い

つも大盛会でした。

大学を出て六〇余年、リタイ

アして三〇年余りになります。

今後は無理をせず引き続き地域

• • • 早稲田と私



卒業六十年の昔話

松島 洋（昭34・政経）

大学を卒業したのは昭和34年

（1959年）。60年安保の前年

で、学生運動は授業料値上げ反

対運動くらいで学内は静かであつ

たように思う。

現役4年の時75周年を経験し、

その時的新築なった記念会堂で

の記念事業について、以前の

会報に書いた記憶がある。

早慶戦での安藤投手の5連投

や平成天皇（皇太子）ご成婚、

60年安保の大闘争は卒業後であ

り、卒業後家業を継いで布佐に

暮らしていた私にとって、テレ

ビも普及時代で、東京から40km

ほどの布佐等では、特に安保闘

争について緊迫感は感じていな

かつたようだ。

通学には成田線でSLもあり上

野まで1時間20分ほどの時代で、

駅は高田馬場、御徒町から39番

の都電、飯田橋からの15番の都

電で3通り、2時間余の通学時

間であった。上野発20時50分が

SLでの成田線の終電で、これも

今では語り草の一つである。



早稲田と我、孫と子

高谷 一之（昭40・商）

稲門会では新顔ですが、標記

の卒業年次とのおり後期高齢者

です。定年退職後は、市内多目

的ホールでのパート勤務、NP

O法人やボランティア団体ある

いは混声合唱団での活動に精を

出し、これまで稲門会と疎遠にな

ついたことは否めません。

この度の早稲田大学交響楽団

演奏会に当たり、コンサート運

営の経験を買われて実松会長か

ら声を掛けいただき、開催準

備の会議に参加するうちに取り

込まれたという次第。

顧れば昨年の総会・懇親会に

久し振りに参加したのも、実は、

都内在住の末の孫が中学受験で、

所謂「渋幕」との決一の末に早

稲田中学に入学したこと、ジ

イさん大いに喜び、早稲田への

想いが強まっていたからでした。

稲田中学に入学したこと、ジ

ンドリン俱楽部」が生まれまし

た。このクラブは、かの古賀政

男が創設に参画したこと、古賀政

がその後コロンビアレコードの

専属作曲家として、歌謡曲に携

わつたことで、マンドリン音楽

は一気に大衆化し、庶民の間に

広まつていきました。

私の学生時代、毎年5月にな

るのは、永年に亘り収集したク

ラシック&ジャズの名盤CDが

五千枚近いことくらいですが、

これで終活として息子からも

断捨離を迫られている昨今です。



早慶明三大学マンドリン演奏会

片倉 武（昭42・政経）

比留間賢八が二度の米欧留学

を終え、帰国際に日本に初めて

マンドリンを紹介したのは1

901年のことです。

さて、マンドリンが上陸して

程ない1910年、東京では最

初に慶應義塾大学に「マンドリ

ンクラブ」が誕生、その年の秋

には我が母校に「マンドリン樂

部」が創設されました。

本年、当会の20周年記念に招

聘した、早稲田大学交響楽団の

演奏会に当たり、コンサート運

営の経験を買われて実松会長か

ら声を掛けいただき、開催準

備の会議に参加するうちに取り

込まれたという次第。

顧れば昨年の総会・懇親会に

久し振りに参加したのも、実は、

都内在住の末の孫が中学受験で、

所謂「渋幕」との決一の末に早

稲田中学に入学したこと、ジ

ンドリン俱楽部」が生まれまし

た。このクラブは、かの古賀政

男が創設に参画したこと、古賀政

がその後コロンビアレコードの

専属作曲家として、歌謡曲に携

わつたことで、マンドリン音楽

は一気に大衆化し、庶民の間に

広まつていきました。

私の学生時代、毎年5月にな

るのは、永年に亘り収集したク

ラシック&ジャズの名盤CDが

五千枚近いことくらいですが、

これで終活として息子からも

断捨離を迫られている昨今です。

が良く、今でも私が主宰する

「ヴィヴァ・マンドリーノ」の演

奏会に慶應、明治の友人が賛助

出演してくれることを無上の喜び

を感じております。



久遠の理想の基に

浜崎 慶子（昭43・文）

早稲田入学に際して一番心惹

かれたのは、大隈重信初代総長

の五訓だった。

一、物事を楽観的に見よ。二、

怒るな。冷静に物を見よ。三、

むさぼるな。四、愚痴をこぼす

な。五、世の中の為に働く。

“言うは易く 行うは難し” —

この五訓を座右の銘として、一

日一日の時間を大切にしながら

生きてきた。そのお蔭で、歴史

は螺旋状で進化すると楽観的に

考える習慣がついた。

現在我孫子稲門会の活動を通

じて、地域の活性化に携わる諸

氏の行動の質の高さに影響を受

け得た真善美に対する知識や体

験を、私は言うに及ばず、子ど

もや孫に伝えていきたい。そう

して、理想としては、当時の白

権派の御三家が影響を受けたメ

テルリンクの楽觀思想を我孫子

の地に蘇らせたい。その手段と

して、アニメーターである川田

明彦氏と令和元年に立ち上げた

「あびこ ぬりえ」を通してど



我孫子稻門会では様々な行事を実施し、年代を超える会員との親睦を深めています。最近の主な活動を報告します。

ゴルフ会

平成12年我孫子稻門会創立後、ゴルフ会も同年秋に活動を開始し、現在に至る。会員数は当初36名、以後40名以内で推移し、現在30名。同好会独自の活動のほか、「千葉県下稻門会」、「東葛・取手地区稻門会」、「六大学千葉OB会」、「取手・我孫子・柏稻門会」(年末)、「我孫子稻門会・三田会」等、外部のゴルフ大会とも交流し親睦を深めている。

北見 正賢 (昭39・文)

囲碁会

19年前、故山口達郎先生を会長に発足した、稻門囲碁会は現在19名の会員を擁しております。毎年6月に行われ、200名以上の早稻田OBが集う、オール千葉県大会、柏稻門会との交流戦に、月例対局は第1、第3土曜日の午後に実施、また夏には、

ウナギ大会。冬にはすし大会等で親睦を倍増しています。囲碁は、AI対局が盛んですが、もう人間を越えておりません。人が、もう人間を越えておりません。人の脳で考え、失敗するところに進歩があるので、失敗しない機械(コンピュータ)との比較は、もう終わりです。

悩みは、どこも同じ、高齢化です。若い人達にスマホを止めたい。

山口 宏 (昭37・政経)

麻雀会

お陰様でこの8月で62回目の麻雀会開催を迎えるました。現会員の18名が月一回5時間のプレイを楽しんでいます。

プレイヤー中は、皆さんボケは控えめでも、お惚け・三味線が盛ん、心内の付度は難しい。加齢と共に益々老練で、勝利への意欲は衰え知らず、可愛いシニアとほいえません。

皆さん生まれ故郷は異なりますが、自然豊かな我孫子に来ら

れ、現在は終の棲家としての生活を満喫されておられるように見受けられます。又皆さんの現役時代の職種は多種多彩、麻雀以外の話も種々お聞きでき刺激も受けられます。ボケを抑えつつ楽しく末永く一緒に麻雀を楽しめれば幸いです。

佐々木 宏三 (昭46・商)

カラオケ会

カラオケ会は、以前あったコスモス会を基として2013年7月に発足し、既に38回を迎えています。

一ヶ月に一回の歌会を重ねて

いるうちに、皆さんその人らし

い歌声と曲選びでレパートリー

を増やしています。

8

カラオケバンバン我孫子緑店で毎回1時半から4時半まで、時の過ぎるのを忘れる程、和気藹々と楽しんでいます。

カラオケは、私の趣味でもあります。ですが、この会をキッカケにして「食べ歩きの会」や「史跡巡り」に参加し、我孫子稻門会での交流を広げることが出来ました。

お陰様で、お茶会、食べ歩きの会、総会などに少しづつ参加する方も増え、感謝です。また

ド歌謡あり、シャンソンあり、懐メロあり、青春歌謡ありで盛り上がっています。下手にかかわらず、奮ってご参り下さい。

永田 堅志郎 (昭40・商)

食べ歩きの会

第十回「食べ歩きの会」が、梅雨晴の令和元年六月二十六日開催された。参加者十二名が車に分乗、守谷市板戸井のイタリア料理の店「桜坂ビーバーチェ」に向かう。

高台にあるお店の庭の木陰で、予約時間迄の三十分余り待つ事になつた。田植が終わつて一ヶ月ほど、稻の穂が未だ出ていない青田が眼下に広がつて清々しい、まさに日本の夏を代表する美しい田園風景である。吹く風も心地良く、蝶や赤とんぼの仲間の夏虫が飛び交い、非日常の世界へと私たちを誘つてくれた。

皆さん生まれ故郷は異なりま

拡がる。楽しい午後のひと時であつた。終りに、拙句を一つ。青田風吹き上ぐる丘夏の蝶

佐藤 厚子 (昭40・商)

女子会

今から十年前程前、柏稻門会総会に伺つた折に、女子会員の多くに目を見張りました。女子会員が増える秘訣を伺つたところ、「飲食を共にして談話を楽しむこと」と言われ、先ずは実行。平成二十三年に我孫子在住の女子会員全員にお便りしました。何とか八名の方が参考集下さいました。上は昭和三十三年卒業の方から、下は昭和四十四年の方まで、駅前の清雅な「茶処竹山」で屈託のない話題に花を咲かせました。以来、「はなぜん」、「ランコントル」などで回を重ねることに参加者も増え、自由闊達な談話の輪を広げています。

お陰様で、お茶会、食べ歩きの会、総会などに少しづつ参加する方も増え、感謝です。また

今年も第九回女子会に、常連の方から新しい方まで、奮っての御参加をお待ちしています。

村上 智雅子 (昭43・文研)

2019年度総会報告

盛大に創立20周年を祝う

我孫子稻門会 創立20周年記念

2019年度総会は6月8日(土)、第一部・記念総会、

第一部・記念コンサート、第三部・記念式典・懇親会の三部構成で

イトヨーカドー・アビイホールとけやきプラザ・ふれあいホールの二会場で開催された。

アマチュア・クラシック界の雄、早稲田大学交響楽団が我孫子にやって来るということで前評判を呼び、千円のチケットが早くに完売した記念コンサートは、会場一杯、540人の市民を前に寺岡清高氏の指揮による素晴らしい演奏が披露され、万雷の拍手がいつまでも鳴りやまなかつた。



記念コンサートの告知チラシ

記念式典・懇親会は星野順一郎我孫子市長、佐々木ひとみ早稲田大学常任理事、松平武史校友会千葉県支部長や近隣稻門会

から多数の来賓が出席して会員と共に創立20周年を盛大に祝つた。

第一部 記念総会

アビイホール 11:30 ~ 12:00

記念総会は冒頭、実松靖之会長が挨拶し、創立20周年を全員で盛大に祝いたいこと、今後も同好会活動などを通して会員相互の親睦を深め、地域への貢献を自指す運営方針について述べた。議事は2018年度事業報告・同収支決算および監査報告承認の件、2019年度事業計画・同収支予算承認の件、2019年度役員改選承認の件の三議案を満場一致で可決して総会を終了した。

第一部 記念コンサート

ふれあいホール 13:00 ~ 15:00

第三部 記念式典・懇親会

アビイホール 15:30 ~ 17:30

記念式典は来賓に指揮者の寺田岡清高氏の指揮による早稲田大学交響楽団の演奏はワーグナー／「ニュルンベルクのマイスター」／「ニユルンベルク」より第一幕への前奏曲で始まり、ブラームス／大学祝典序曲と続いた。休憩の後、ベルリオーズ／「ファウストの効果」より「ラコツツイ

行進曲」、ベートーベン／交響曲第5番「運命」と続いた。寺岡清高氏とコンサートマスター最後は早大OBでもある寺岡先

アンコールでピエール／カルメン

第一組曲より前奏曲、応援歌

「早稲田の栄光」の演奏と続き、最後は早大OBでもある寺岡先

から花束贈呈が行われた。

アンコールでピエール／カルメン

第一組曲より前奏曲、応援歌

「早稲田の栄

2018年度収支決算

収入	金額	支出	金額
年会費	552,000	会員募集費用	-
総会会費	285,000	総会開催費用	563,104
新年会会費	207,000	新年会費用	225,873
企画事業会費	-	企画事業費用	-
寄付金収入	30,000	会報発行費用	17,400
祝い金	120,000	部会補助	20,000
受取利息	3	支部活動費	42,000
当期収入合計(A)	1,194,003	交際費	134,890
前期繰越収支差額(B)	224,347	通信費	38,081
収入合計(C=A+B)	1,418,350	事務費	12,020
		会議費	23,500
		交通費	15,535
		事務用消耗品費	35,409
		寄付金	50,000
		支出合計(D)	1,177,812
		収支差額(E=A-D)	16,191
		特別勘定繰入(F)	200,000
		繰越収支差額(B+E-F)	40,538

2019年度収支予算

収入	金額	支出	金額
年会費	570,000	会員募集費用	20,000
総会会費	420,000	総会開催費用	470,000
新年会会費	240,000	新年会費用	240,000
企画事業会費	30,000	企画事業費用	30,000
寄付金収入	-	会報発行費用	20,000
祝い金	120,000	部会補助	40,000
受取利息	10	支部活動費	40,000
当期収入合計(A)	1,380,010	交際費	120,000
前期繰越収支差額(B)	40,538	通信費	40,000
収入合計(C=A+B)	1,420,548	事務費	10,000
		会議費	20,000
		交通費	15,000
		事務用消耗品費	35,000
		寄付金	50,000
		支出合計(D)	1,150,000
		収支差額(E=A-D)	230,010
		特別勘定繰入(F)	80,000
		繰越収支差額(B+E-F)	190,548

* 20周年事業特別会計収支予算は総会資料に記載のとおりです。

地区別校友数・会員数・地区委員

地区	校友	会員	地区委員
布佐	21	5	
布佐西町	2	1	
都	1	0	
布佐平和台1丁目	7	0	
布佐平和台2~7丁目	27	8	
南新木	8	1	
新木	9	1	
新木野	24	1	
下ヶ戸	12	1	
古戸	4	0	
中里	7	0	
日秀	5	2	
中峠	28	3	
中峠台	6	2	
都部	3	1	
岡発戸	5	0	
湖北台1~5丁目	34	4	
湖北台6~10丁目	34	4	
栄	20	4	
泉	30	4	
天王台	57	13	
東我孫子	28	8	
高野山	37	6	
若松	38	6	
寿	38	9	

個人情報保護の
 見地から
 マスキング

地区	校友	会員	地区委員
本町	5	0	
緑	17	3	
白山1丁目	31	8	
白山2丁目	19	0	
白山3丁目	27	5	
船戸	28	6	
台田	23	3	
久寺家	29	8	
つくし野1丁目	25	3	
つくし野2丁目	21	2	
つくし野3丁目	57	9	
つくし野4丁目	7	0	
つくし野5丁目	18	8	
つくし野6丁目	25	3	
つくし野7丁目	20	7	
並木	42	10	
我孫子1~4丁目	100	13	
我孫子(上記以外)	3	0	
根戸	32	0	
青山	4	0	
青山台	62	12	
南青山	1	0	
柴崎台	24	7	
柴崎	3	2	
市外(東京、松戸、柏)		7	
合計	1,108	200	

「校友」は2019年4月10日現在の早稲田大学校友会名簿

「会員」は2019年10月1日現在の我孫子稲門会名簿

我孫子稻門会 会員名簿

(2019年10月1日現在 200名)

個人情報保護の見地から

マスキング

我孫子稻門会事務局

個人情報保護の見地から
マスキング

『年会費納入のお願い』
会報発行や、総会、新年会などのご案内並びにその他事業など我孫子稻門会の諸活動は皆様会員の年会費により賄われています。
2019年度の年会費未納の方は、同封の郵便振替用紙により12月末日までにお振込み頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

この会報の編集は、ここ数年、毎回担当者が交代しています。本号は稻門会に遅れてやつてきた（別稿のとおり）高谷が担当し、前任の横須賀副会長の指導のもと編集ソフトのガイド本と音つきで試行錯誤を繰り返しました。脱稿した後も不具合が散見され汗顏の至りです。どうぞ、恕の心で接していただけますよう願っております。

編集後記

写真でふりかえる我孫子稲門会



2008年9月の「ゴルフ会」(江戸崎CC)



2011年11月の「お茶会」(アピ스타和室)



2013年6月の「囲碁会」(市ヶ谷・日本棋院)



2014年5月の「旅行会」(富士本栖湖リゾート)



2015年の新年会・校歌斎唱(鈴木屋)



2017年11月の「史跡巡り会」(板橋・遍照寺)



2018年11月の「女子会」(我孫子・ランコントル)



2019年8月の「麻雀会」(麻雀グリーン)